



NEWS Letter 2014年 第15号

2014年12月1日発行

食欲の秋、読書の秋・・・は、また、思春期ピアカウンセラー養成者の認定試験の秋でもあります。今年は2名の認定講師が誕生しました。

健やか親子の第一次が終了し、27年度から第二次がスタートします。第二次でピア活動に何が求められているのをいち早くキャッチし、新たな活動に向けて再スタートを切ることが大切です。そこで、今年度のブラッシュアップは視野を広げ、時流を正しく認識することを目的に3方面から講師をお呼びし研鑽しました。15号はその特集号として発行します。

特集号：平成26年度「ピアカウンセラー養成者」認定・ブラッシュアップセミナー

ピアカウンセラー養成者認定試験を終えて、今思うこと

関西看護医療大学 齋藤啓子 (ピアネーム ピロリ)

私のピアカウンセラー養成者としての始まりは、平成17年に思春期ピアカウンセリング・コーディネーター養成セミナーの受講からでした。それまでも思春期の性については関心があり、思春期保健セミナーやSRHセミナーを受講したり、徳島県助産師会の会員として小学生や中学生を対象とした性教育出前講座に参加し活動をしていました。そのような時、思春期ピアカウンセリングが各地で実施されていることを知り、ピアカウンセリングに興味を持ち、思春期ピアカウンセリング・コーディネーター養成セミナーに参加しました。セミナーで思春期ピアカウンセリングの理念を知り、思春期ピアカウンセリングに魅了されました。

そして、平成18年に思春期ピアカウンセラー養成者養成セミナーを受講しました。ベーシック4日間・フォローアップ2日間ともに宿泊研修で、研修内容についていけるか不安でした。昼の講義・演習は新しい知識の修得と自分自身の感情との向き合い、夜は宿泊施設で、課題について夜遅くまでグループメンバーと話し合ったり、資料を作ったりと、今思えば濃厚な時間を過ごしたと感じています。ベーシック受講の後、養成者研修生として鳥取県と高知県で開催された思春期ピアカウンセラー養成講座に参加させていただき、思春期ピアカウンセラー養成講座の実際を体験させていただきました。養成者養成セミナーを受講後、徳島県でも思春期ピアカウンセリングを実践したいという思いが強くなり、保健所や学校訪問等を行いました。なかなか糸口がつかめず、そのうちに私自身の事情も重なり、いつしかピアカウンセリングから遠のいてしまいました。このままピアカウンセリングと関わることなく過ぎていくのかな・・・と漠然と考えるようになり、日々の生活が中心になっていた時、再び思春期ピアカウンセリングと関わる機会が訪れました。



それは、平成 25 年 9 月の徳島保健所に勤務している友人からの 1 本の電話でした。徳島保健所の『未来きらめくピアエデュケーション・ピアサポーター養成事業』の初年度計画の研修会講師として高村先生が徳島県に来県され、私を探してくださっているとの電話でした。そこからは 7 年間の空白を埋めるかのごとく、怒涛の日々でした。特に翌月（10 月）に現勤務校の学生祭でピアっ子 6 名が、ピアカ

ウンセリングについてのコーナーを作って活動をしていたことと、平成 26 年 8 月に徳島県でも思春期ピアカウンセラー養成講座を開催するということは、思春期ピアカウンセリングに魅了された時の私の気持を思い出させてくれました。

ブラッシュアップ研修や平成 25 年度・26 年度養成者養成セミナーへ聴講生として参加させていただいたり、養成者研修生として兵庫県や徳島県などで開催された思春期ピアカウンセラー養成講座へ参加させていただきました。ピアカウンセラー養成講座では一部のセッションを先輩ピアっ子と一緒に担当させていただき、ピアっ子や認定講師からアドバイスをいただきました。それら 1 つ 1 つが養成者研修生としての自分の自信となり、平成 26 年度思春期ピアカウンセラー養成者認定試験へとつながりました。特に養成研修生として担当させていただいたいくつかのセッションは、毎日がピアっ子達との一期一会の大切な時間であり、養成者としてまだまだ学習が必要と実感させられるものでした。それだけに、認定試験が終了し認定書をいただいた時には、嬉しさとともに養成者としてさらなる研鑽と責任の重大さを感じました。

現在は、NPO ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会に所属させていただき、兵庫県各地でのピアカウンセリング・ピアエデュケーション活動にピアっ子達とともに参加させていただいております。また、学内に先輩も支援者もない中、自分たちでサークルを立ち上げ活動を始めていた勤務校のピアっ子 6 名と、学内でのピアカウンセリング活動の継続も模索しております。本年度より地元徳島県でも思春期ピアカウンセラー養成講座が開催され、ピアカウンセラー養成やピアカウンセリング・ピアエデュケーション活動の継続など、たくさんの活動の場をいただいております。ピアっ子達、先輩認定講師の方々、ピアカウンセリング活動を支援して下さる方々などたくさんの方々にサポートしていただきながら、ピアカウンセラー養成者として一步一步前を向いて歩んでゆきたいと考えております。

養成者認定試験と認定講師にあたっての思い

鹿児島大学教育学部 石走知子(ピアネーム 海)

2002 年、ピアカウンセリングと初めて出会い、「人は機会があれば自分自身の問題を解決



できる能力を持っている」という基本哲学に共感し、また、ピアっ子たちが見せる「協働する力」、「創造する力」、「凌駕する力」を目の当たりにし、感激と感銘で心が震えたことを思い出します。そして、ピアカウンセリングに関わり続けて12年目の2014年、とうとう養成者認定試験に挑戦することになりました。九州地区では合同でピアカウンセラーの養成をしております。養成者としての企画力・実行力・コーディネート

ト力・熱い情熱を持ち合わせた前田ひとみ先生や下敷領須美子先生から受けた有形無形の学びと、ピア☆ぴあ☆かごしまのピアっ子たちが思いを込めて作成した媒体をもって模擬授業に臨みました。

いざ模擬授業が始まってみると、情報過多の特徴が出てしまい、「本当に伝わって欲しいことは何か、余韻で伝えることも大事」の課題をより明確に実感する機会となりました。未熟な講義ではありましたが、今後に期待をして合格を出してくださった先生方とご指摘に心から感謝し、さらに伝達する技と心を磨いていきたいと思いを新たにしているところです。

私は、現在教育学部に所属しており、学校教員や将来学校教員となる学生と関わる機会が多くあります。九州地区のピアカウンセラー養成にとどまらず、若者への健康教育・性教育に、このピアカウンセリングが子どもたちの心に残る有効なアプローチであることを、教員免許更新講習、教員免許法更新講習、大学講義等、機会のある限り伝えていければと考えております。

今後とも、ご指導・ご助言、ピア仲間としての語り合い・励まし合いの程、どうぞよろしく願いいたします。

ブラッシュアップ・セミナーに3人の先生方に来ていただきました。

東京都における児童・生徒の性に関する調査報告から見えること

東京都幼・小・中・高・心性教育研究会 井口一成会長

「東京都における児童・生徒の性に関する調査報告から見えること」と題し東京都幼・小・中・高心性教育研究会会長の井口一成先生から講義をして頂いた。導入として、現代社会における教育とそこでの性教育現状についての話を伺った。教育現場では独立した個人として、固有の在り方を形成過程にある人として、人格を尊重する教育を目指している。その中で教育課程の中の性教育の位置づけと指導方法・指導内容を概説して頂いた。

本題として井口先生が会長を務められる東京都幼・小・中・高心性教育研究会で3年毎に調査をされている2014年調査結果をもとに現代の児童・生徒の性意識・性行動の動向について伺った。その内容は、中学3年生では、女子はほとんどの生徒が『月経』を経験しているに対し、男子は半数以上が『射精』を経験していないことから男女の発育の差が報告された。過去の調査と比較すると男子は調査ごとに減少し、02年のデータと比べると約10ポイントの差が生じ、男子の発育の遅れが報告された。高校では『高校生の性交について』の問いに、男女とも「許容的見解」の減少傾向と「否定的見解」の増加傾向がみられ性交に対して慎重な態度を取る生徒の増加がみられること、『性交経験率』では08年に高校3年生で男子45%超、女子40%超だったものが、今回の結果では男子27.6%、女子18.1%と急激な変化があったことが報告された。また、日本の現代社会ではインターネット環境の普及、社会環境の変化により生徒周辺でどのような変化があるのかを自身の経験をもとに現状と課題について伺った。



調査ごとに減少し、02年のデータと比べると約10ポイントの差が生じ、男子の発育の遅れが報告された。高校では『高校生の性交について』の問いに、男女とも「許容的見解」の減少傾向と「否定的見解」の増加傾向がみられ性交に対して慎重な態度を取る生徒の増加がみられること、『性交経験率』では08年に高校3年生で男子45%超、女子40%超だったものが、今回の結果では男子27.6%、女子18.1%と急激な変化があったことが報告された。また、日本の現代社会ではインターネット環境の普及、社会環境の変化により生徒周辺でどのような変化があるのかを自身の経験をもとに現状と課題について伺った。

これらの現状から、性教育をおこなうためには、授業目標にあった適切な授業方法を用いることが重要であることや以前の情報量の少ない時代と違い情報量の多い現代では参加型授業が望まれることなどをご教授頂いた。また、その教育の根底には『心の教育』として「他人を大切にする」⇒「自分が大切にされる」⇒「自分を大切にすること」を伝えることが重要であることを伝えて頂いた。さらに、学校における性教育に関する指導について①生徒の発達段階を踏まえること、②学校全体で共通理解を図ること、③家庭・地域との連携を推進し理解を得ること、④集団指導と個別指導の連携を密に効果的に行うこと、⑤「小・中・高校の系統的学習で行う」ことの重要性を説明された。さらに児童・生徒の性教育の希望は「夢や希望を持てる性教育をしてほしい」であり、それに沿った形で、児童・生徒の学びたいと思っていることと大人が教えたいと思っていることが一致する教育をすることが大切であると語られた。最後に今後の思春期のピアカウンセリング活動として性教育だけでなく、近年の10代の死因第1位の自殺に向けた自殺防止を働きかける活動を期待していると述べられた。

この講演を伺い、小中高生の児童・生徒の性意識や性行動の変化を知り時代背景に合ったピアカウンセリング・ピアエデュケーションの内容を検討していく必要性を示唆された。また、現在思春期のピアカウンセリング・ピアエデュケーションで行っている性に関するもの、デートDVに関するものに加え自殺予防も目指した新たな活動展開を視野に入れる必要を感じた。

(報告者 富山大学大学院医学薬学研究部母性看護学 笹野京子 ピアネーム ペ)

健やか親子21(第2次)

基盤課題B：学童期・思春期から成人期に向けた保健対策に焦点をあてて

一般社団法人 産前産後ケア推進協会 市川香織 代表理事



平成13年度から開始された「健やか親子21」は、今年度で終了となり、最終の評価報告書も出され、これまでの成果と課題を第2次の「健やか親子」へ引き継ぐこととなります。

今回は、この「健やか親子」に、開始時期より携わってこられた市川先生からお話を伺うことができました。

まず、冒頭で印象的なお話を聞くことができました。それは、健やか親子の策定にあたって、「思春期の保健対策の強化と健康

教育の推進」が課題1となった意味です。これまで、私も、「健やか親子」の活動をおこなってきましたが、思春期が課題1であることの意味について考えたことはありませんでした。「健やか親子」の策定当時の思春期の健康問題の状況（望まない妊娠や性感染症等）から、課題の1としての大きな意義を改めて感じました。

次に、これまでの指標に関する評価について、お話をいただきました。16の評価指標のうち、私たちのピア活動と関連の深い2項目「**十代の性感染症罹患率**」「**性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合**」については、目標を達成し、改善されています。また、人工妊娠中絶率についても、目標値までには、至っていませんが、減少傾向にあります。一方で、十代の自殺は、改善されていませんでした。私自身が、ピアの活動を始めて10年が過ぎました。最初のころには、ピアの活動は、望まない妊娠や性感染症に焦点があっていましたが、現在では、ピア活動に求められるものも、心の問題やドラッグ、DVなど多岐にわたってきています。これは、社会と思春期の若者の変化によるものと、性に関する問題について、様々な取組により一定の成果を上げた結果でもあると感じました。

最後に、「健やか親子（第2次）」に関するお話をいただきました。第2次では、思春期に関することは、基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」として、課題に取り組んでいくこととなります。このなかで、ピア活動については、「ピアサポート」として、明記されています。また、メディアやWEBを活用していく新たなアプローチについても興味深く聞くことができました。

日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会でも、これまでのピア活動の評価を行うこと、新たな健やか親子21の方向性を理解しつつ、思春期の若者たちと共に課題解決と、思春期の健康支援を行っていくことの重要性を再認識する機会となりました。

(首都大学東京 健康福祉学部看護学科 安達久美子 ピアネーム ダッチ)

「健やか親子 21(第2次)基盤課題B：学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」 における評価課題と具体的方法

公立大学法人福岡県立大学 松浦賢長教授

課題評価の基本と、健やか親子21(第2次)における「ピアサポートの推進」の課題評価について、パワーポイントを用いながら解説された。「健やか親子21」最終評価報告書から関連個所の抜粋文書が資料として配布された。講演の概要は次のようであった。



1) 課題評価の基本

課題の評価にあたっては、理念から目的、目標、指標、達成基準値までの一貫した設定と目的から計画までの設定が必要である。このようなプロセスで事前に設定した達成基準値を達成したか否か、それが評価である。性教育の場合、相手との関係性の中で起こるなど、性に関する現象についてのエビデンスが不十分であるという現状にある。そのため、健やか親子21でもこのプロセスが具体的かつ十分に描けていないというのが実状である。

また、我が国では、現状から理念や目的が設定されることがしばしばあるが、目的を決定し目標と指標を立てたうえで現状を捉え、現状との乖離を埋める方法を計画として考えることが必要である。例えば、どのような状態になればこの事業を中止するのかということを考えてうえで事業をスタートさせるなどである。

計画は目的論から派生させる必要があり、目的なき目標設定は理想型思考で、演繹思考がないということになるため、注意が必要である。

2) 「ピアサポートの推進」の課題評価

ピアサポート(※松浦先生は「ピアサポート」と表現で話されたためその通り記載しています)の位置づけは、基盤課題Bの中の1つの要素となっているが、基盤課題Bの1つというよりも、子どもの主体性に重点を置いて考えると、健やか親子21(第2次)の全体目標に至るための戦略という位置づけと考えられる。

目的、目標、指標それぞれについて考え、どのような状態になるとピアサポートは終わるのか、目的に至っていることをどのように評価するのかを考える必要がある。また、計画立案に際しては、指標・達成基準値の設定と合わせて期間を設定することが重要である。さらに、何といつ組み合わせると効果的のかなど連動する取り組みを設定しておく必要がある。

また、性教育では「寝た子を起こす」など予期せぬ方向にいくことがあるのも事実である。また、「知識は行動を変えるのか」という点もあり、ピアサポートの評価では「子ども達の慎重な性行動を引き起こしたか」など、独自の評価の視点を出す必要がある。

評価にあたっては、無記名か記名か、いずれの方法で実施するかによって見えるものが違ってくる。例えば、前後の変化で評価しようとする場合、無記名で集団として捉えた場合「改善」となっても、前後の個々のデータを連結させて評価すると逆の方向に動く子どももいることが見えてくる。このようなことを考えると、集団でフォローする時代は終わったのかもかもしれない。

最後に、ピアサポートについては、子どもの主体性の観点から位置づけていくことの必要性が再度語られ、ぜひ、十代の自殺の減少への効果の点からも評価していただきたい旨が報話された。（梶山女学園大学 看護学部 服部律子教授ピアネー りっちゃん）

ピアカウンセラー養成者認定・ブラッシュアップセミナーに参加して

自治医科大学看護学部1年 関 陽子（ピアネーム：はるか）



今回のセミナーを受けて、私たちピアっ子の活動の裏にはたくさんの方の情熱やご協力があるのだということを実感しました。全国の養成者やコーディネーターの方とお会いして、同じ女性が様々な分野で自分の夢を追いかけている姿を見てとても感動し、たくさんのエネルギーをいただきました。

決して甘んじることなく、養成者としての自分の立ち位置を考えていた桃さん、

ピアの可能性、熱い気持ちを教えてくださったぴろりさんとお話しし、ピアっ子としての自分の未熟さを実感し、成長したいと強く思いました。海さんとは残念ながらお話しする機会がありませんでしたが、模擬授業や近況報告を通してピアっ子を信じて、愛してくださっていることを強く感じました。そのような方たちとお会いしてお話をさせていただき、ピアっ子として自分が何をしたいか考えようと思いました。

ブラッシュアップでは先生方のお話を聞き、行政が考える若者の問題点や、対策を知ることができました。そのようなことに触れるのは初めての経験でしたが、自分や友達の経験に照らし合わせていくと納得できる部分も多くありました。井口先生の講演の中で、「高校生は自分のニーズに合った情報しか聞かない。」という言葉には特に共感しました。私自身、高校時代に様々な講演を聞く機会がありましたが、今考えるとほとんど「心に響く」という内容はなかったように感じます。ピアの養成講座では「心に響く」というセッションがたくさんありました。ピアだからこそ中高生の心に寄り添い、響かせることができるのだと思います。井口先生は専門外なら無理にインターネットの問題を扱う必要はない、とおっしゃっていましたが、高校生のころの私にとっては妊娠や性感染症よりも、インターネットやSNSに関することの方がずっと身近に関心がある内容でした。その上、そのような内容について話を聞く機会があっても、実際に同じような境遇や立場でインターネ

ットやSNSを使ったことがない大人からの話は押し付けられているように感じていました。今の私はピアっ子としての経験も、インターネットやSNSの知識も足りませんが、勉強して新たにそのような内容のセッションをやりたいです。ピアの力を求めてくださるなら、すぐには難しくても新たな内容に挑戦したいです。

また、市川先生、松浦先生のお話を聞き、様々なアンケートや集計をして今の若者の傾向を分析し教育に繋げようとしてくださっていることもわかりました。しかし、どうしても中高生にはアンケートには書かないこと、書けないこともあると思います。全国にいるたくさんのピアっ子たちと経験を語り合い、新たなセッションを作ることもしてみたいです。ピアっ子の強みは、年齢が近いこと、同じ時代に同じ経験をしていることだと思います。私たちの経験に絡めて内容を考えて作っていくことで、完璧にはできないかもしれませんが、聞く人の心に響くセッションができるのではないかと思います。

今回のセミナーに参加し、ピア活動の可能性、そして理解、協力してくださる行政やたくさんの大人がいてくださることを強く実感しました。その方々に感謝し、たくさんの活動に参加してピアっ子として成長したいと強く感じました。私の勝手な希望ですが、来年もブラッシュアップに参加し、少しでも成長した姿を皆さんにお見せできればと思います。

11月1日、第24回関東甲信越静性教育研究大会（長野大会）長野市にて開催される。

基本テーマ 「性教育によってはぐくまれる未来とは」

午後の課題別研究協議の第4分科会「思春期ピアカウンセラー交流」に、北は秋田、そして群馬、栃木、東京、地元長野の思春期ピアカウンセラー約50名が参加し、大人支援者と共に交流を深めながら研究協議した。詳細は次号。



日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1
自治医科大学地域医療学センター 公衆衛生学部門
電話 0285-58-7338
FAX 0285-44-7217
発行人 高村寿子 編集人 前田ひとみ
年3回発行 <http://www.jpcaea.net/>